

# 研究通信

№ 66

1969 4 月刊  
村落社会研究局  
事務 局  
関西学院大学  
社会学部 内

## 事務局連絡先変更のお知らせ

今年度の事務局は関西学院大学でお引受けしましたが、その後学院紛争がエスカレートし、全学が封鎖されていますので、今後は直接左記宛と連絡下さるようお願いいたします。

大阪府箕面市桜ヶ丘一丁目十四番二十七号（郵便番号五五〇）

余 田 博 通

## 第十七回村研大会報告申込について

今年度の大会運営は後記のように実施することに決定しましたので研究発表（自由報告および共通課題に関する報告）についてのご希望を左記により公募します。

一、申込〆切 五月十五日

二、題目および原稿（レジュメでも結構です）を添えてお申込み下さい。ただし原稿又はレジュメは〆切後に別にお送りいただいても結構です。

三、今年の課題

最終的な決定は、運営委員会を開くことができないので、

それらの方々の御意見を尊重して、事務局で左の如く決定しました。諸般の情勢おくみとりの上御了承願いたく存じます。

一、自由報告

三、共通課題 「村落社会研究の方法」

## 第十七回村研大会の日時・開催地のお知らせ

日本社会学会第四十二回大会が昭和四十四年十月四・五日の両日島根大学において行なわれるので、村研大会は十月一日、二日の兩日行なり。場所は松江への途中でもあり、大阪駅から福知山線で約一時間二十分の「丹波篠山」の国民宿舎「ささやま荘」を予定している。七月はじめに出欠および宿舎希望をとる予定。

## 第一回運営委員会報告

一、期 日 四十三年十一月三十日 午後二時より

二、場 所 関西学院大学

三、出席者 後藤和夫 松本通晴 余田博通 光吉利之

（オブザーバー）二宮哲雄

四、議題および議事内容

(1) 大会運営について

自由報告と共通課題に関する報告の二本立てにすることを決定。

(2) 共通課題について

運営委員が各地に散在されており全体会議をもつことが困難な

ので、とりあえず大阪近辺の運営委員により原案を作成し、各地区の運営委員に検討を依頼することに決定した。なお、共通課題の原案として左記の三つのテーマが選定された。

(イ) テーマ選択の基本原則

(i) 昨年度までに取上げられたテーマを総括し、その成果をふまえた上で再度「村落構造」とは何かについて検討しうるようなテーマであること。

(ii) 社会学のみではなく他の諸科学（経済学、経済史学、民族学、地理学等）からも接近可能なテーマであること。

(ロ) 原案として選ばれた三つのテーマ

(i) 村落類型論の再検討。すでに社会学、経済学、民族学等の諸領域において展開された類型論があるが、これらの既存の類型論を従来の村研の成果をふまえて再検討し、新しい類型構成への展望を明らかにする。

(ii) 村落構造の変化を阻止するもの。昨年、一昨年度には「推進力」がとりあげられたが、これらの成果を総括して変化を阻止する要因を明らかにする。なおこの問題については、たとえば「封建遺制」を取上げるのか、あるいは「政策」の側面から取上げるのかというように多様なアプローチが想定される。したがって、これを選ぶ場合にはさらに問題点を明確にすることが要請される。

(iii) 村落構造分析の「方法」について、（あるいは村落研究の方法）。従来取上げられた多くのテーマと成果を整理

する意味で村落構造分析の方法を再検討する。この場合も社会学、経済学その他の学問領域において展開された方法論をそれぞれ日本もふくめた国際的視野から再検討する。

共通課題に関する運営委員のご意見

第一回運営委員会で作成された共通課題に関する原案にたいして当日ご出席いただけなかった運営委員に検討をお願いしたところ、八名の方々からご返事があつた。それを極く大雑把に整理すると次のようになる。

一、「方法論」。この場合は具体的なモノグラフをふまえて方法論を取上げるか、あるいは従来の諸研究の方法論的成果の批判と検討という形で取上げるのもよい。また、抽象的な方法の討論におわらせないで、方法論の生み出されてきた歴史的必然性と論理的経緯を相互に提出しあってゆくという方向も考えられる。なお、ご回答の中ではこのテーマを希望される委員がもっとも多かつた。

二、自由報告のみとする。従来共通課題はいわばみな無理をしてやってきたという面もあるということ、また、現在の大学状況では特殊テーマを設定してもその課題に即して研究を進めるのにかんがりの困難が予想されるという理由で自由報告のみに限定してはどうかというご意見があつた。ただし、この場合報告の中から興味あるものを一つ選んで、それについて共同討論をしてはどうかという提案があつた。

三、以上の外に「村落構造を阻止するもの」として水田ないし稲作と村落構造をとりあげ最近の国の米対策の変化がそれにどう影響するかを検討してはどうかという意見もあった。

なお、昨年度の大会において一般の会員から希望として提出された本年度の共通課題目は次のとうりであった。

- ◇ 地域開発と社会計画
- ◇ 農村諸集団の検討
- ◇ 村落生活と農村問題
- ◇ 漁業村落の研究
- ◇ 過疎化現象にともなう村落構造の変化
- ◇ 村と家族の歴史的位置づけ
- ◇ 鎮守と葬式の問題
- ◇ 村の生活組織とその統合性
- ◇ 村の性格と機能
- ◇ 新しい農村社会
- ◇ 農村社会の変化の展望
- ◇ 村落社会と農村家族
- ◇ 村落社会の土地所有形態
- ◇ 地域類型の再検討
- ◇ 村落変化の歴史的段階的性格——推進力の歴史的展開としての農民運動に視点をすえて——
- ◇ 兼業農村の村落社会構造
- ◇ 過疎地域農村社会の問題
- ◇ 都市化と農村——さいごに残される共同生活組織——

### 地域（あるいは地帯構造）類型の再検討

——若林敬子——

(注) 抽象的、「地域」として、地方自治体とコミュニティとかいう概念でなく、「東北」「県別」「蒲原地域」等々の内容でつかっており、その広さのレベルはとくに限定しなく、包括的につかうこと。

#### 第一 富農の地域的分布およびその形態

「富農」の形成発展を現資本主義段階においてどのように把握するかは、農民層分解論の最もキー・ポイントとなるところでありそれをめぐって論議のわかれるところである。「企業の経営農民」などという語が今大会においても、あいまいなままできて、その方向性を問う場もありましたが（島崎氏から布施氏への質問その他）、一部上向農民がはたして階級的範疇たる「富農」（あるいは「富裕農」でも）なのか、それとも単なる「大型小農」にすぎないのかは、「農民」の歴史的階級的規定をめぐる大問題です。

その際注意しなくてはならぬと思うのは、その現段階の存在形態において大部地域の相異がつきまといっているということです。それにもかかわらず、大舞台に一気にひきずりこみ、大まかな論議がされ、論議が空まわりし、非生産的になっていくところに現在論争の問題があります。今日における「富農」は大都市近郊の「土地とむすびつかない」形での酪農、養豚、養鶏等の商品的企業農形態、あるいは一方、純水田単作地帯の代表である蒲原等の局地的富農形成又北海道の大型等諸現象がありましよう。その諸存在形態がばたしてどう階級的に規定されるか、ということと。さらにはそのみならず、その説明内容段階ででてくることとして、村落の諸条件と結びつきをもっているのか、又もっているとしてどのような基盤の上に形成の契機をもっているか等が問題となります。（たとえば大都市近郊では村落の基盤はないし、後者は低賃銀決定のメカニズムと村落あるいは部落

をめぐって問われるでしょう)このような地域差の顕著な富農の地域的分布およびその存在形態がきまこまかく実態比較分析されることこそが、農民層分解論の抽象的な兩岸をばさんでの大声主張から、具体的論議形成発展へと導くための意義ある問題のたて方ではないかと考えております。

## 第二 農民運動の地域的分布およびその形態

島崎氏の発表の中で「運動があるところばかりおっかけているのではないかといわれますが……」といわれ、笑いがおこりましたが、まさに現在の唯一の階級的組織たる全日農の組織化には、大府府果別、市町村別等地域的偏在があることは、昨年の同氏の発表からもあきらかです。

一種の「伝統」のある局地的な地において、又一部指導者の偶然的存在がプラスして、少数の組織が存在しているといえる気来がありません。もう一つ大切なことは、その運動の内容においても、それが米価闘争か乳価闘争か等その同じ価格闘争にしても、その農業構造のちがいによってだいたいその要求内容もことなるところが実態です。問題はその地域的運動の分布およびその闘争内容形態が、はたして将来あるいは現在においても、全体レベルの中でどう方向づけ評価可能であるかということです。

蓮見氏が「狭義の農民運動でなく、体制変革の推進力となりうる広義の農民運動」ということばをつかっていましたが、その次元での方向性はどうなのか。さらには衆議院選、地方自治体議員の政党別投票分析、さらには農民意識論までほりさげての、そ

の地域別、地帯的分析は、論をきまこまかく発展させるために必要です。もちろん島崎氏の飯山市のような事例的形、あるいは県別表の形ではなされていますが、それを一歩すすめて全体の普偏性の中で位置づけるための一歩前の前提的作業として、地域的特質を把握する必要があります。すなわち、現在拠点的諸種要求の運動を、地域的分布自体の特質、その形態の特質を地域レベルで一度整理しなおすことを通じて一般性への展望を全体の中であきらかにすることです。

## 第三 東北型Ⅱ同族型、西南型Ⅱ講組型の再検討

従来の農民社会学には上記のような地域(集団)類型があります。有賀氏の発想を歴史的段階範疇に整理しなおした福武氏の発想は、かならずしも有賀氏のそれと同じであったとも思われなく、有賀氏からするなら、「おもわぬ方向」へといき、そのままになっていくようでもあります。又、その後福武氏への数々の批判、評価の累積もご存知のとおりです。

大会席上有賀氏が「今までの既刊論文をひっぱりだして」といわれていた提案にもかわりますが、論文のみでなくその古典的とさえなってしまうような社会学的な日本農村地域類型を、あらためて今日の段階で現時点での問題として、考えなおしてもよいのではないのでしょうか。関東農村はどう規定できるのか。北海道はどうなのか。

福武氏を中心として、かつて岡山、秋田の両典型調査が行われましたが、その一五年後の変化をみようと今年「農民意識調査」が

なされつつあります。単に一五年後の変化のみならず、一五後の類型理論そのものの再検討が全村研のメンバーの中で問題とされる意義もあるのではないのでしょうか。この種(講組・同族)の類型の意義がはたして今日意義あるものかどうか、又類型そのものからくる抽象的な無理はどうか、日本農村そのものの変化およびその方向性を具体的にみきわめる一契機、一視点として、この社会類型論の再検討を提案します。

以上大きくわけて①富農―農民層分解 ②農民運動 ③社会類型から今日の地域別、地帯的区別分析が多面的になされることを提案致します。三視点はたまたま気づいたものであり、他の視点もありましょう。

すべて一括して「資本の論理の貫徹」といってしまい、その内部矛盾を捨象し一面的にやってしまう危険性(小池氏のするとい指摘)をさける意味からも、地域の発展類型論をきめこまかくみるところから、内部矛盾をさぐる手がかりもあるのではないのでしょうか。その意味で社会学のみならず、諸学の集約も可能と思われ

ます。

行政レベルにおいては、まさに、拠点的上からみさだめた開発図がつくられ、そのもとにもとの日本国内農村における地域的差は、色かえつくりかえられてしまっているのではないかと、いう面がなるとありますが、その中になおかつ、生産力段階、社会集団なりから地域(地帯)差が問題とされる論拠は残っているのではないのでしょうか。まさに今日の日本農村の変化を内

的矛盾に目をすえてみ、なおかつ論議の生産的發展のためには、その地域的相異を全体の中に改めてみなおすことが課せられているのではないかと、ということですが。大会討論の際に、安原氏がまとめられた 1 農民 2 村落 3 変化 4 推進力 5 展望の規定を地域的差に目をすえてそこから逆のきりかたをしてみてもどうか、ということにもつながりましょう。

たんに空論におわる危険をさけることから、農業生産力の現段階の規定を、歴史的問題のもとにとりあげることが必要であり、その意味で山田盛太郎氏の「日本農業生産力構造」の中の類型研究成果のふまえなどが大切になってきました。

以上、短い時間故流し文になりました。

村 研 へ

(村研大会からかえった十月二十三日)

村研会員二年生として

東大大学院

若 林 敬 子



## 新入会員紹介

野々村良恵 早稲田大学大学院政治学研究所

東京都新宿区下落合二一七三九 のじり方

## 会員名簿の訂正

岡田 謙 東京都世田谷区桜丘四一二二一〇

神谷 一夫 岩手県盛岡市大通三一五一一一

田口 正己 川崎市木月三一四八〇 戸塚方

戸塚 博允 東京都豊島区雑司ヶ谷二一五一七 村上方

花島政三郎 東京都渋谷区猿樂町二二 村野いせ方

なお、左記の会員のご住所と存知の方は事務局までお知らせ下さい。

小林茂、橋本梁司、高木幹夫、田中幹夫、鳥谷部仁、根岸義夫、奥田和彦、松村安一、舛田忠雄、山口光男

## 会費受入報告

(昭和四年四月二一日現在)

年月日	氏名	金額	納入済年度
四三十一三〇	野々村良恵	七〇〇	四四
四四、三、六	花島政三郎	一三〇〇	四三(四年度内〇〇円納入済)

## あとがき

鎌倉での村研大会のとき、今年の日本社会学会大会が島根大学で開催されることとの関連もあって村研事務局を関西学院大学でお引受けしました。直に今年の村研大会開催地につき検討を始めましたが、社会学関係以外の方には、山陰は遠すぎますし、できるだけ京阪神に近い所で山陰への交通の便もよい所と考えた末、「ささやま荘」に予約しました。山陰へは京都よりも大阪からの方が便利がよ、大阪駅から福知山線篠山口駅まで急行で約一時間二十分です。大阪から松江行の途中です。この機会に丹波篠山へ是非いらしていただきたくお待ちします。なお希望者には、附近の日本五古黨の一である丹波燦の薫元である立杭に御案内したいと思っております。さて、ところが事務局のある関学大が学生によって封鎖されてしまいました。今年は見透しを誤りました。紛争はいつ解決するか分りませんので、事務局は当分前記の如く小生宅に移しますので御了承下さい。

各地の大学も紛争中で、皆様方御心痛御多忙の様子で、運営委員会も開けませんので、葉書で御意見をうかがい、京阪神在住の方々と相談して今年のささやま大会へ進みたいと思っておりますので、鶏状御察しの上、会員諸氏の御了承を得たいと思います。

昨年の大会のようを事前の充全の準備は、今年はできそうにありませんが、大会発表や参加に御協力を切に願います。

(事務局・余田・光吉記)